

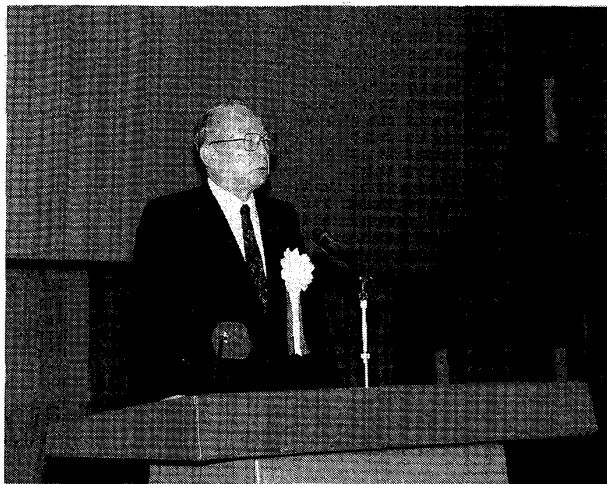
報 告 ~~~~~

第 112 回 (昭和 61 年秋季) 講演大会記事

第 112 回講演大会は昭和 61 年 10 月 20 日から 22 日まで名古屋大学工学部で開催された。

開会式・表彰式

10 月 20 日午前 9 時 20 分から、豊田講堂において開会式、表彰式が行われた。式は木下亨本会専務理事司会のもと、はじめに坂尾弘実行委員長挨拶 (名古屋大学工学部教授) および久松敬弘会長挨拶が行われた。



開 会 挨 拶 [久松会長]

東海支部における講演大会は、昭和 54 年以来、7 年ぶりのことであり、今講演大会の発表数は討論を含め 891 件の多きを数え、その内容は基礎から応用さらに萌芽・境界技術にわたり時代の要請に応えるとともに将来への指標を示す意欲が伺われ、ご同慶に堪えないしだいであります。

このたびの講演大会は、名古屋大学工学部長家田正之殿をはじめ大学当局のご理解によりまして多くの会場をお借りして、開催することができますことは誠に光栄に存じます。

また、東海支部江崎藩支部長、坂尾弘大会実行委員長をはじめ大会実行委員および関係者各位のご努力により本日を迎えることができました。ここに厚く御礼を申し上げますとともに、本日からの 3 日間が会員諸兄にとつて極めて有意義でありますよう祈念いたします。

一方当協会では、秋季講演大会に際しまして毎年「浅田賞」「ヘンダーソン賞」「三島賞」「林賞」ならびに「山岡賞」の表彰を行っておりますが、受賞者の方々に心からお祝い申し上げるしだいでございます。

また、この表彰式に続きまして、浅田賞受賞の飯田賢一殿および吉澤兵左殿には、受賞記念特別講演をお願いしてございますので、会員諸兄のご静聴をお願いいたします。

さて、会員各位には既にご承知のとおり急激な円高、ドル安に端を発し、鉄鋼を含む経済の長期的不況という厳しい環境にあります。

この中にあつて本会は、科学技術の研究開発を推進する方法の一つとして、産学連携の実をいつそう高めるため、大学などの研究機関および製鉄企業の研究が、いかなるものを指向しているかを、広く知らせる目的で研究テーマを公募いたしました。この趣旨について多くの方々のご賛同を得まして 98 件に上る多数の応募がありました。この結果につきましては「鉄と鋼 9 月号」に公開いたし、研究のご参考としたしだいでありませう。

なお、本会といたしましては応募テーマの内 5 件を特定基礎研究会の単独研究項目として採り上げ研究を依頼いたしました。

一方、先に述べました現下の経済情勢と金属研究に関する変革期に対応するため、白松爾郎副会長を委員長とする「臨時協会事業検討委員会」を設け、三つのテーマについて検討に入りました。すなわち

1. 協会事業の範囲
2. 協会事業活動の総体的見直しと問題点の摘出および改革
3. 事務局の現状に対する検討と改革

であります。

本日からの 3 日間各会場において本会に関する「会員の声」を募集いたしますので、ご意見をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

つづいて、浅田賞、ヘンダーソン賞、三島賞、林賞、山岡賞の表彰式が行われた。(各賞理由は別記掲載)

浅田賞 東京工業大学工学部教授 飯田賢一殿

「日本鉄鋼技術史に関する研究」

〃 吉澤石灰工業(株)取締役社長 吉澤兵左殿

「高品質石灰およびドロマイトの量産技術と供給体制の確立」

ヘンダーソン賞

日本金属工業(株)研究開発本部研究部長

新井 宏殿

〃 〃

課次長

竹田誠一殿

「ステンレス鋼における炭化物粒界析出の理論解析」

三島賞 名古屋大学工学部教授 岩間義郎殿

「永久磁石に関する基礎的研究」

〃 京都大学工学部助教授 牧 正志殿

「鉄系形状記憶合金に関する研究」

林 賞 大同特殊鋼(株)取締役機械事業部長

足立敏夫殿

「アーク炉操業の合理化」

山岡賞 鉄鋼基礎共同研究会高炉内反応部会

「高炉内現象とその解析」

〃 (社)日本鉄鋼協会特定基礎研究会石炭のコークス化特性部会

「石炭のコークス化特性の研究」

特別講演

表彰式につづいて浅田賞受賞記念講演が催された。

(1) 日本鉄鋼技術の恩人たち

一初代会長野呂景義博士につらなる人びと—

飯田賢一殿

(2) 高品質石灰およびドロマイトの量産技術と供給体制の確立

吉澤兵左殿

講演大会

講演数は製鉄 134 件, 製鉄・製鋼共通 46 件, 製鋼 139 件, 加工・システム・利用技術 173 件, 分析・表面処理 58 件, 材料 225 件, 萌芽・境界技術 93 件, 計 868 件ならびに討論 2 テーマ (講演 23 件) が 19 会場に分かれ, 講演, 討論が行われた。

なお, 講演 606 「管状炉によるガス浸炭特性に関する基礎的検討 (浸炭に関する基礎的研究—I) 新日鉄君津技研 芹川修道, 他 1 名の講演は講演者からの申し出により欠講となった。

討論会テーマは次のとおりである。

1) 高炉用コークス製造における石炭の事前処理

座長 水野 豊 (住金化工)

2) 連铸—熱間圧延の直結化

セッション 1 座長 川上公成 (鋼管)

副座長 溝口庄三 (新日鉄)

〃 2 座長 川並高雄 (新日鉄)

〃 3 座長 大谷泰夫 (住金)

懇親会

10 月 20 日午後 6 時より愛知厚生年金会館において金属学会と合同で開催された。新日本製鉄(株)名古屋製鉄所副所長江崎澁氏司会のもと, 坂尾弘実行委員長, 久松敬弘本会会長, 大谷正康金属学会会長, 家田正之名古屋大学工学部長挨拶の後, 佐藤知雄前名古屋大学学長の乾杯の音頭で始められた。320 名の参加者を迎え, 各地からの参集した会員間で歓談が午後 8 時頃までくりひろげられ, 武田喜三本会前会長の万歳三唱で散会した。

ジュニアパーティー

10 月 21 日午後 6 時より, 名古屋大学南部食堂で開催された。各地より参加した 180 名の若手技術者, 研究者を中心になごやかに懇談がなされた。

見学会・婦人見学会

次のとおり見学会, 婦人見学会が開催された。

1) 見学会 (10 月 23 日)

第 1 班 愛知製鋼(株), 新日本製鉄(株)名古屋製鉄所

第 2 班 ヤマザキ・マザック(株), トヨタ自動車(株)

なお, 第 3 班日本電装, 東邦ガスは都合により中止となった。

2) 婦人見学会 (10 月 21 日)

小原和紙のふるさと, 愛知県陶磁資料館